

原発がこわい女たちの会
<http://blog.zaq.ne.jp/g-kowai-wakayama/>

《 2015年01月 | トップ | 2015年03月 》

検索

2015年02月28日(土)

 検索

どうしようもない核のゴミ—美浜の会代表 小山英之さんにきく

アーカイブ

2月21日、「子どもたちの未来と被ばくを考える会」主催により核のごみについて考えよう！のテーマで公開学習会が行われました。核のゴミといってもいろいろあるけど、今回は「使用済み核燃料の高レベル放射性廃棄物」のこと。講師は美浜の会代表小山英之さん。参加者は20数名、疑問があればそのつど講師に質問をぶつけて議論していく方式で、14時から3時間近くにわたりました。

まず**使用済み核燃料の再処理の問題点**について詳細に説明していただきました。

使用済み核燃料の貯蔵の現状：原発サイト(9電力+原電)プールの69%、青森県六ヶ所再処理工場プールの98.6%が埋まり容量は残りわずか。

六ヶ所再処理工場は、使用済み核燃料を再処理する巨大な化学プラント。使用済み核燃料を細かく切断し、ドロドロにしてプルトニウムとウランと高レベル廃液に分け、高レベル濃縮廃液をガラス固化する工場。

さて再処理の問題点としては

- ・ガラス固化(放射性濃縮廃液をガラスと融かし合わせて固化)は、試運転中にストップ⇒溶融炉の2つの本質的欠陥があり今後もガラス固化の行き詰まりは不可避

- ・再処理できないために工場施設内に高レベル濃縮廃液が溜まっている(原発2基分の放射能が液体状で)。冷却・掃気停止で水素爆発の危険性。ひとたび大事故が起これば東北・北海道は放射能の壊滅的被害

- ・平常に運転しても「原発1年分を1日で出す」といわれるほど大量の放射能を大気と海へ放出。国は「環境中で拡散・希釈されるので問題ない」と説明

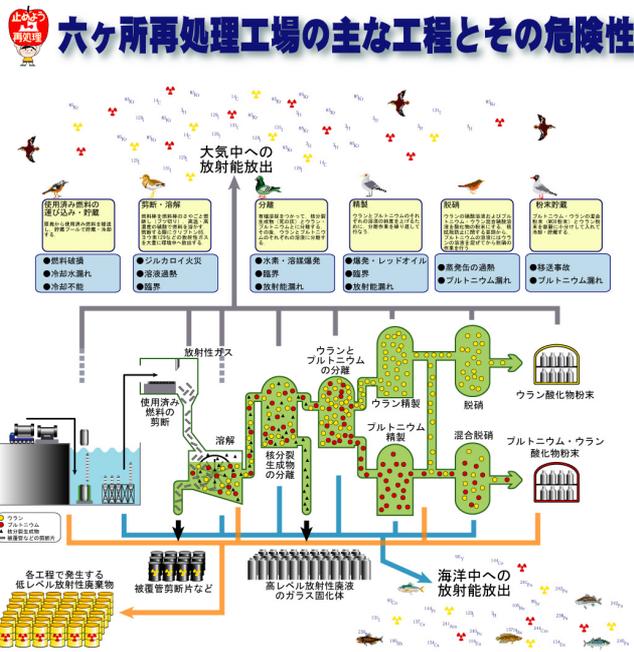
- ・六ヶ所敷地内、下北半島沖活断層の問題も

などなど、使用済み燃料の再処理は危険性が大きいばかりで実効性がないという結論です。

原子力資料情報室のホームページにも再処理の実態が分かりやすく述べてあります。

<http://www.cnrc.jp/knowledgeidx/rokkasho>

- 2016年11月(2)
- 2016年10月(1)
- 2016年09月(1)
- 2016年08月(2)
- 2016年07月(4)
- 2016年06月(2)
- 2016年05月(1)
- 2016年04月(3)
- 2016年03月(2)
- 2016年02月(3)
- 2016年01月(2)
- 2015年12月(4)
- 2015年11月(2)
- 2015年10月(1)
- 2015年09月(3)
- 2015年08月(3)
- 2015年07月(2)
- 2015年06月(2)
- 2015年05月(2)
- 2015年04月(2)
- 2015年03月(2)
- 2015年02月(2)
- 2015年01月(5)
- 2014年12月(3)
- 2014年11月(2)
- 2014年10月(2)
- 2014年09月(2)
- 2014年08月(1)
- 2014年07月(2)
- 2014年06月(1)
- 2014年05月(3)
- 2014年04月(4)
- 2014年03月(3)
- 2014年02月(1)
- 2014年01月(3)
- 2013年12月(4)
- 2013年11月(1)
- 2013年10月(3)
- 2013年09月(5)
- 2013年08月(1)
- 2013年07月(3)
- 2013年06月(5)
- 2013年05月(3)
- 2013年04月(2)
- 2013年03月(6)
- 2013年02月(2)
- 2013年01月(3)
- 2012年12月(2)
- 2012年11月(1)
- 2012年10月(2)



http://www.cnrc.jp/rokkasho/img/process.jpg

2週間前のNUMOのシンポジウムの時と大きく異なります。エッ、そんなこと全然聞かなかった！！

NUMOの説明では、「再処理はトラブルがあってストップしていましたが、まもなく本格操業します」「再処理することのメリットは、ウラン、プルトニウムを資源として再利用できること、および高レベル放射性廃棄物の体積が低減でき処分面積を削減できることです」

でした。呆れるほどの楽観論です。というか欺瞞的。そんなはずないのだからということが小山さんの話からよくよく分かります。

またつい最近、核のごみをめぐる政策提言で大きな動きがありました。

1つは、2月17日、日本学術会議が政府と電力会社に求める政策提言案をまとめた(3月公表予定)ことです。

2012年にも「核のごみ」政策の抜本的見直しを提言しており、改めて改善を促している。この問題に進展がないまま原発再稼働や新增設を進めることは、将来世代に対する無責任を意味するものであり、容認できないと強調している。

2012年に示された「総量管理」と「暫定保管」の方向付けの下に、社会的合意形成と解決への道すじにむけた諸課題が検討されたとのこと。

さらに、暫定保管施設は、負担の公平性の観点から**原発立地以外で、各電力会社が管内に確保する計画を作成することを再稼働の条件として求めている。**

2つは、同日、**放射性廃棄物ワーキンググループ(経産省)**で、従来の「基本方針」の改定案がだされ、3月閣議決定への報道がなされました。

それによると、地層処分の計画は維持しながら技術上政策上の変更があっても対応できるよう埋めた後でも処分を中止して搬出する**回収可能性**。さらにガラス固化による再処理をせず直接処分その他の処分方法の見直しも調査研究する。また処分場の候補地は、国が「有望地」を示して住民との合意形成をはかる。

後者には、学術会議が提起した暫定保管の考え方は存在するが、総量管理については見当たらない。総量管理の在り方は原子力利用の将来像を示すものに他ならない。総量管理に言及しないのは結局、原発を使い続ける姿勢は変わっていないということ。

これらの、まだ湯気が立っている最新の情報を折り込みながらの小山さんの話でした。

小山さんの結論としては、次のとおり。

核のごみの処理・処分は行き詰まっているとの認識は社会的に共有されている。それなのに、**原発を再稼働してごみをさらに増やし、それを中間貯蔵するのが政府の方針**。この問題の前提となるべきは、**原発再稼働を止め、核のごみをこれ以上増やさないこと**。また再処理は危険かつ見込みがないがゆえに止め、使用済燃料のまま直接処分することを検討すべきである。

- 2012年09月(2)
- 2012年08月(2)
- 2012年07月(4)
- 2012年06月(4)
- 2012年05月(3)
- 2012年04月(1)
- 2012年03月(1)

最新コメント

- [日韓の原発事情、国 by 民 守 正義(08/21)
- そもそも、我が和歌 by 清水俊幸(07/25)
- コメントありがとう by sora (12/05)
- 突然すみません。東京 by 里美(11/22)
- 10/26と11/29のチケット by 角谷(10/23)
- starさんコメントあり by sora (09/14)
- このブログを読むまで by star(09/13)
- こんにちは。メッセ by わんこ(04/15)
- 現在稼働している大飯 by star(04/09)
- 廃炉産業を起こしてほ by kaziwarayosiyuki(03/14)

カレンダー

< 2015年02月 >

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |

最新記事

- 琵琶湖が危ない 老朽原発 美浜3号も廃炉に！ 11・13
- 琵琶湖集会(11/15)
- 汐見文隆先生、ありがとうございました(11/08)
- 原発がこわい女たちの会 ニュース99号発行(10/12)
- 高速増殖炉もんじゅ廃炉へ(09/27)
- 老朽原発・美浜3号機は廃炉に！ パブコメを出そう(08/28)
- ピースボートで韓国古里(コリ)原発を見学してきました(08/21)
- 熊本地震の経験から原発の耐震性見直しを要求し、25団体で共同声明を出しました(07/22)
- 老朽原発・関西広域連合へ要望書と和歌山県との話し合い(07/17)
- 原発のない社会を投票で示そう！(07/05)

総量管理の問題や、原発立地とその他の地域の負担公平性、MOXなど、詳しくお聞きしたいことが、まだまだ沢山ありました。再処理で生じたプルトニウムをMOX燃料として使用するプルサーマル発電の問題については、3月20日に出る佐賀地裁判決(小山さんは弁護団の特別補佐人)に注目しておこう、ということでした。[こちら](#)

また最後に、世話人代表の松浦雅代さんから、核燃料中間貯蔵施設に関する御坊市の動きについて、「紀伊民報」(2011年7月7～9日)記事をもとに、紹介がありました。

2003年、御坊市に核燃料中間貯蔵施設誘致の動き突然浮上し、市議会を中心に誘致活動と住民の反対運動があったこと。2009年9月に市議会中間貯蔵施設調査特別委員は誘致反対の請願を10件不採択にし、翌2010年3月にはその特別委員会は廃止。

その後、立ち消え状態になってはいますが、御坊市には関西電力の火力発電があり事務所があること、白浜町日置には原発建設候補地だった土地をまだ所有し立地部職員2人も配置が継続、御坊市にも白浜町日置にも大きな港があること等から、各地で注意して行く必要があります。

「和歌山にそんな話があったことを初めて知った」という参加者の声もありましたが、核のごみの中間貯蔵や地層処分の施設構想と無関係とは、決して言えないと思いました。

(sora)

2015-02-28 | [記事へ](#) | [コメント\(0\)](#)

2015年02月15日(日)

高レベル放射性廃棄物の地層処分・NUMOのシンポジウム

先日、和歌山市内の県立図書館メディア・アート・ホールで開催されたNUMO(ニューモ、原子力発電環境整備機構)のシンポジウム「高レベル放射性廃棄物の処分について」に一般参加してきました。もちろん、来る21日に予定されている小山英之氏(美浜の会)の講演を意識してのことです(前号参照してください)。

**注)高レベル放射性廃棄物とは、NUMOによれば
原子力発電所で使い終わった燃料(使用済核燃料)をリサイクル(再処理)する際に残る廃液を、ガラスと溶かし合わせて固めたもの(ガラス固化体)です。**

さて、この催しは昨年5月の仙台を皮切りにほぼ毎週のように実施。全国県庁所在地をキャラバンし和歌山県は27番目とのこと。会場にはざっと見80名の参加者。席がほぼ埋まっていました。

理事長挨拶(かの近藤駿介氏。2011年の福島原発事故当時には原子力委員会委員長)、パワーポイントを用いてNUMO全般と地層処分の丁寧な概要説明の後、パネルディスカッション、フロアとの質疑応答という進行でした。

配付資料⇒パワーポイント33枚と参考資料

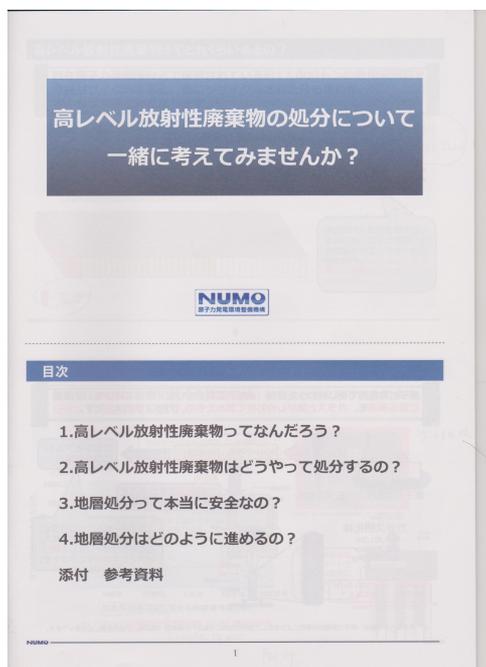
原発がこわい女たちの会
ニュース98号発行(07/04)

SCHEDULER

ナビゲーション

[トップ](#)
[記事の投稿](#)
[管理](#)
[RSS](#)
[ログアウト](#)

BLOGGariは2017年1月末
サービス終了します



ディスカッションは、地元から大学生と社会人(女性)、産経新聞社論説委員、3名のパネリストが、高レベル放射性廃棄物の処分について質問し、NUMOの職員(地域交流部と技術部各1名)が応答、これらをコーディネーターが束ねるという構成でした。

質問内容は、超初心者のなものから有識者のものまで凸凹が激しかったですが、世の人々の意識のありようはこんなものということでしょうか。いずれにせよ反対意見や突き詰めた議論は殆どなくて、もっぱら地層処分の安全性、妥当性を説明する成行きでした。

フロアとの質疑応答では、質問は口頭ではなく質問紙提出による形式でした。(ただし出された質問については20件近くでしょうか、逐一読み上げてはNUMOから回答があったので、この方式は手際よくでき平等感があるかも、と思いました。)質問は多岐にわたるものでしたが、使用済み核燃料の再処理や地層処分の安全性を疑問視する意見も何人かから出されていました。当日会場からの意見や質問については、ネットにアップされるので注目です。
<http://www.numo-caravan.com/report.html>

今回参加してみて、再確認したこと。

◎NUMOは再処理で生じる高レベル放射性廃棄物の地層処分を実現する、そのための条件を整備するのみ。

東電福島原発事故で停止した全国の原発の再稼働も、使用済み核燃料の再処理を行う核燃サイクルも、プルサーマル発電を行うためのJパワー大間原発の新設も、みんな日本の原子力政策に沿ったもの(筆者注:国民の意識とは別物だけど)。その議論は別のところでやってくださいというわけです。「責任逃れをするわけではないが」とパネリストの職員も口にされていましたが。

ところで高レベル放射性廃棄物が現在どれくらいあるかといえば、ガラス固化体として青森県六ヶ所村で貯蔵管理される約2000本、および全国の原発の使用済み核燃料プールで保管(ガラス固化体になっていない)されるもの、あわせて25000本相当が原発開業以来50年余りの間で原発から発生した量となる。ところがNUMOが計画中の施設は40000本。

だから、いま止まっている原発が再稼働されあるいは新增設されて、今後も高レベル放射性廃棄物が増え続けることを前提に、「今後も全部引き受けます。お任せください」とのスタンスだ。40000本が50000本、60000本の施設になることもありうる、とまで公言された。

地層処分が安全ならば何万本だろうと同じことなのでしょう。

「高レベル放射性廃棄物の地層処分は、原子力発電による電気を利用してきた私たちの世代で、解決していかなければならない課題です」

とNUMOはご宣託。百歩譲って、「どうしたらいいのか、地層処分もみんな考えて考えなければ」と思うけど、今後もじゃんじゃん原発を稼働させて電気作りますよ、となると話は別です。

再処理してガラス固化した高レベル放射性廃棄物は30～50年間冷却、調査から操業完了(閉鎖)まで100年以上。その先10万年。地層処分だけが責任もつの？

ガラス固化の技術は失敗続きで長期間ストップ。本当にもうOKなの？
再処理する核燃料リサイクル。そんなにプルトニウム貯め込んでどうするの？

次々と生じる疑問だらけの中で、パネルディスカッションでの発言だが「皆様のご理解を得る」とか、「学校教育でも取り上げて」「情報戦略を練る必要がある」とか聞くと、ちょっと待ってといたくなります。情報の内容と方向性が問題だよ、都合のいいことばかり一方的に、机上の空論の宣伝では論外です。

さいごに、ステキな川柳を見かけましたので紹介させていただきます。
道徳で教えよまずは後始末(桑原宜彰 2月11日朝日新聞)
道徳教育の教科化など喧しい昨今ですが、大人は教えられてこなかったわね。後始末はみんな先送り。

(sora)

2015-02-15 | [記事へ](#) | [コメント\(0\)](#)

 RSS 2.0